

# 入学から卒業までの カリキュラム

## 医学部医学科

### 学びの特色●チュートリアル教育、 統合カリキュラムを柱とした6年一貫教育

医学科のカリキュラムは、一般教育、基礎医学、社会医学、臨床医学で構成されるが、各大学では、卒業までに最低限履修すべき教育内容をまとめた「医学教育モデル・コア・カリキュラム」をベースに、工夫を凝らしたカリキュラムを編成。2023年から国際的な基準で評価を受けた医学部の卒業生でなければアメリカでの医療に従事できなくなったこともあって、グローバルスタンダードに則ったカリキュラムを編成するようになった。

6年間の標準的なカリキュラムは下図のようなものだが、一般教育は、幅広い教養や語学を学ぶほか、医学教育にスムーズに対応できるように、生物学、物理学、化学など専門教育を受けるための基盤となる知識や考え方も修得。また、早期医学体験実習で実際の医療現場を見学・体験し、病棟看護体験実習でチーム医療の重要性を認識させるケースも

多い。大学によっては一般教育と基礎医学が融合したカリキュラムを編成し、医療倫理や安全管理などを考える科目も開講している。

基礎医学は医学の基礎となる学問領域で、正常な人体の構造と機能、さまざまな疾患の原因と引き起こされる病態、薬物の作用などについて、個体、組織、細胞レベルから分子構造レベルまで幅広い視点で学習する。主として2年次で履修するが、大学によっては1年次から履修を始め、5年次にかけて履修する大学もある。おもな科目には解剖学、発生学、組織学、生化学、生理学、薬理学、免疫学、病理学、遺伝学などがあり、講義と実習を通して理解させる。病理学では病気の原因と生体の変化を顕微鏡や遺伝子レベルで学び、薬理学では薬の作用メカニズムを学ぶ。

社会医学は、医療環境や病気の予防、法律と医学の関連などを学ぶ分野で、疫学や予防医学、地域保健医療学、公衆衛生学、環境医学、法医学などを、おもに3年次、4年次で学ぶが、6年次に地域保健医療学実習を行うケースも多い。

臨床医学は3年次から4年次にかけて履

### 医学科の標準的カリキュラム

